

河川観測機器小型、省力化

進化版「Ruby」活用

研究開発 ソフトウェア システム



全国で豪雨災害が相次ぐ中、「しまねソフト研究開発センター」（松江市学園南1丁目、ITOC）が、松江発のプログラムミング言語「Ruby」の進化版「mruby/c」を活用し、河川の観測システムを開発した。同言語で作ったプログラムは水位計などの機器を小型、省電力化できるのが強み。導入する自治体や企業は初期投資や運用経費を抑えながら、機器を複数設置して観測精度を高め、減災・防災につなげられる。ITOCは消費電力などを実地試験し、松江発の技術として国内外に広めたい考えだ。

（古和隆宏）

mruby/cで作成したプログラムを搭載した水位計について説明するITOCのスタッフ＝松江市学園南1丁目、ITOC

mruby/cはコンピュータのメモリー使用量が少なく、集積回路の小型化や省電力化が可能になるため、小型機器やウェアラブル端末への応用に適している。他の言語より少ない入力行数でプログラミングできる利点もある。2015年に九州工業大学（北九州市）と共同開発に着手し、今年初めに完成した。

システムの実地試験は、藤井基礎設計事務所（松江市東津田町）と共同で実施。出雲市斐川町内を流れる河川にこのほど、mruby/cで作ったプログラムを組み込んだ水位計三つと、雨量計を一つ設置した。水位と降水量のデータは10分間隔で同社サーバーに自動送信され、インターネットを通じてパソコンやスマー

複数設置容易 精度高め減災期待

トフォンで把握できる。実験は10月まで行い、電力消費量やプログラムの作動状況などを調べる。

藤井基礎設計事務所システム開発課の小村芳生チーフエンジニアは「実用化すれば、プログラムの機能を生かして機器の小型化や低電力化が可能になる。消費電力も少ないため、機器の設置数も増やせる」と説明した。河川観測は従来、対象となる大規模河川の水位を測定して行うことが多かったが、河川に流れ込む支流や側溝、下水道の水位も測定することで精度が高まり、洪水被害などを防止できるという。

ITOCは今後、実験結果を踏まえ改良を進める。製造業での生産設備の稼働状況の把握などにも応用できるため、幅広い地場企業の協力を得て用途開発を進める。ITOCの東裕人専門研究員は「mruby/cの性能を広くPRし、利用を促したい」と話した。

20億円補
9月議会

鳥取県は7
5600万円

度一般会計補
ど、14日開会
議会で提出す
表した。

同予算案の
7月の九州北
け、流木によ
性がある県内
洗い出すため
00万円▽収
する鳥取空港
に向けた調査
円一など。

また、鳥取
するため、管
う民間業者の
画の策定作業
に決定する予

衆院選野党
民、共、社に
鳥根の反

安全保障関
る鳥根県内の
る「安保関連
めるしまね総
行委員会」は
院選での野党

出雲発プロテイン新商品

雲南こ工場アルプロン

三

IZMOは「しなやかで
動ける体づくり」をコンセ

三江線
法定協
交通網計画を最終決定

鳥根、広島両県とJR三
江線沿線6市町の担当者
でつくる法定協議会「三江
通体系の基本計画となる。

や運賃について16人から27
件の意見が寄せられた。そ
れを踏まえ、両県や沿線市
町などが実施する、観光利
用者の増加に向けた施策の
開始時期を、当初案の20